

引き続きプロセス指標の達成に取り組む

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会大腸がん部会
鳥取県健康対策協議会大腸がん対策専門委員会

- 日 時 平成27年1月22日（木） 午後1時40分～午後2時50分
- 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 26人
魚谷健対協会長、八島部会長、岡田委員長
秋藤・尾崎・北垣・柴垣・瀬川・田中・富田・長井・西土井・濱本・
細川・細田・柳谷・米川各委員
オブザーバー：藤原鳥取市保健師、廣田米子市主任
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：村上室長、米田課長補佐
久保田係長、羽原主事
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任

【概要】

・平成25年度は受診率29.2%、要精検率9.8%、
精検受診率は76.1%、がん発見率0.26%、
陽性反応適中度2.7%であった。要精検率
が平成24年度より1.2ポイント増加した。
国のプロセス指標は要精検率許容値7.0%

以下、精密検査受診率目標値90%以上、が
ん発見率許容値0.13%以上、陽性反応適中
度許容値1.9%以上としているが、要精検
率は許容値を上回り、精密検査受診率は90
%に程遠いが、がん発見率、陽性反応適中
度についてはいずれもいい成績であり、精

度が保たれていると思われる。

- ・平成25年度に発見された大腸がん又は大腸がん疑い154例について確定調査を行った結果、確定大腸癌142例で、そのうち早期がんは80例、早期癌率は56.3%であった。
- ・国立がん研究センターが策定を進めている医療機関検診用の大腸がん検診チェックリストについて、鳥取県においてはそのモデル事業に参画した。国立がん研究センターがこの事業を委託している「キャンサーキャン」より平成26年10月31日付けで、県内の大腸がん一次検診医療機関256機関を対象に、事業評価のためのがん検診チェックリスト（個別検診用）策定に向けたパイロット調査依頼を行った結果、1月現在で256機関中、130機関の回答があった。回収率50.8%。現在、集計解析中である。
- ・読影委員会としての役割を明確に示し、更なる読影精度管理に努めるべく、「鳥取県大腸がん注腸読影委員会運営要領案」を提示し、協議の結果、原案どおり承認された。

挨拶（要旨）

〈魚谷会長〉

皆様には、日頃から健対協事業にご尽力頂き、深謝申しあげる。

先日、先ほど黙祷を捧げた前元大腸がん部会長の古城治彦先生の葬儀に参列したが、生前のお姿の映写の中に、山陰労災病院での大腸内視鏡ファイバー検査2万件達成時の記念写真があった。永年にわたり大腸がん検診に御貢献いただき、大変惜しい方を亡くしたと残念でならない。心からお悔やみ申し上げます。

さて、本日は、平成25年度大腸がん検診最終実績報告、平成26年度実績見込み等の報告がある。鳥取県の大腸がん検診が更に実績が上がっていくよう、活発な議論をお願いする。

〈八島部会長〉

昨年度、本県の要精検率が高いことから、医療機関等にご協力を頂き、便潜血検査キット等の実態調査を行い、鳥取県の状況が把握出来た。また、精度管理においては、「鳥取県臨床検査精度管理委員会」が、年に1回実施する、医療機関、検査機関等の精度管理調査項目の中に便潜血検査についても追加していただいた。

全体的にみても本委員会は順調に運営されており、また、鳥取県の大腸がん検診は、全国的にも高いレベルで行われている。

本日の報告事項、協議事項を通してご検討いただき、今後の方向性について、ご意見をいただきたい。

〈岡田委員長〉

国立がん研究センターが策定を進めている医療機関検診用の大腸がん検診チェックリストについて、鳥取県においてはそのモデル事業に参画したが、集計結果はこれからまとめられるところである。

また、検診機関別毎の検査方法等の調査を行ったが、要精検率、陽性反応適中度等で多少問題となる医療機関がある。大腸がん検診は便潜血検査の精度が重点であるので、個々に対応を求めていることとなるので、ご協力をよろしく願いたい。

報告事項

1. 平成25年度大腸がん検診実績最終報告並びに26年度実績見込み・27年度計画について

〈県健康政策課調べ〉：

久保田県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長〔平成25年度実績最終報告〕

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は190,556人で、受診者数は55,556人、受診率は29.2%で、平成24年度に比べ、受診者数が1,194人、受診率が0.7ポイント増加した。平成

20年度以降、無料クーポン補助事業が行われたことにより、受診者数、受診率とも上昇傾向にある。

受診率は東部31.2%、中部27.3%、西部28.2%であった。また、受診率の目標50%達成に近い町と低いところでは約30%の開きがあった。

前年度より受診率が約8ポイントも増加した町村に対し聞き取りを行ったところ、国保の人間ドック実施分が健対協の精度管理の条件を充たしたことにより、受診者数を計上したとのことだった。

要精検者数は5,456人、要精検率9.8%で、平成24年度より1.2ポイント増である。精検受診者は4,151人、精検受診率76.1%で例年並みであった。許容値70%以下の市町村が依然としてある。

精密検査の結果、大腸がんは146人で、大腸がん疑いは9人であった。がん発見率（がん／受診者数）は0.26%、陽性反応適中度（がん／要精検者数）は2.7%で、平成24年度に比べ、がん発見率は0.01ポイント、陽性反応適中度は0.52ポイントそれぞれ減少した。

要精検率は東部9.0%、中部9.0%、西部11.1%、がん発見率は東部0.265%、中部0.233%、西部0.275%、陽性反応適中度は東部2.9%、中部2.6%、西部2.5%で、前年度と同様に西部の要精検率が高いが、がん発見率、陽性反応適中度は地区の格差はなかった。

検診機関別の要精検率は、鳥取県保健事業団8.4%、中国労働衛生協会7.3%、病院11.1%、診療所10.6%で、例年と同様に医療機関検診の要精検率が高い。

また、がん発見率は集団検診0.189%、医療機関検診0.308%で、医療機関検診のがん発見率が高い。

国のプロセス指標は要精検率許容値7.0%以下、精密検査受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.13%以上、陽性反応適中度許容値1.9%以上としているが、要精検率は許容値を上回り、精密検査受診率は90%に程遠いが、がん発見率、陽性反

応適中度についてはいずれもいい成績であり、精度が保たれていると思われる。

以下の質問があった。

- ・医療機関検診の要精検率で中部12.6%、西部11.6%と高いが、医療機関でばらつきがあるが対策はとられているか。

これについては、岡田委員長より、昨年度行った便潜血検査キット等の実態調査から、病院で、用手法でしているところは要精検率が高い傾向にあることが分かった。また、「鳥取県臨床検査精度管理委員会」が、年に1回実施する、医療機関、検査機関等の精度管理調査項目の中に今回便潜血検査についても追加して頂き、近日中に結果が出ることとなっている。その結果を踏まえて、問題のある医療機関には働きかけていきたいと話があった。

- ・国保の人間ドックを行っているが実績に計上出来ていない町があるのはなぜかという質問があった。

検診の契約時に市町村と地区医師会、検診医療機関で健対協の精度管理を満たすよう協議の場を持って頂きたい。

また、人間ドックでは、大腸がん検診と胃がん検診がセットで行われる場合が多い。その場合、胃がん検診の写真読影が2人以上の読影委員で行われていないことにより、健対協の精度管理を満たしていないため、実績を計上出来ないという課題もある。

[平成26年度実績見込み・平成27年度計画]

平成26年度実績見込みは、対象者数190,556人に対し、受診者数は58,245人、受診率30.6%で平成25年度より約2,700人増の見込みである。また、平成27年度実施計画は、受診者数60,156人、受診率31.6%を計画している。

[平成22年度及び平成23年度精検未把握率]

厚生労働省ホームページで公開されている平成22年度・23年度「地域保健・健康増進事業報告」データより、鳥取県内市町村別精検未把握率を示した。

精検未把握率とは、要精検者のうち、精検受診の有無がわからない者及び（精検を受診したとしても）精検結果が正確に把握できていない者の割合である。国の許容値は10%以下である。

精検未把握率は平成22年度11.9%、平成23年度は8.9%であった。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：富田委員

[平成25年度検診実績]

地域検診は20,694人が受診し、そのうち要精検者数は1,690人、要精検率8.17%で前年度より1ポイント増加した。精検受診者数は1,259人、精検受診率74.5%であった。精密検査の結果、大腸がんは39人発見され、大腸がん発見率0.19%、陽性反応適中度2.31%で、前年度と同様であった。また、がん疑い2人、ポリープ536人、ポリープ発見率2.59%で、ポリープが前年度より約80人増であった。

全受診者の中で、初回受診者（初回受診＋4年以上前受診）は、受診者数2,594人、全受診者の12.5%であった。要精検者数は228人、要精検率8.79%、精検受診者数は142人、精検受診率62.3%であった。精密検査の結果、大腸がんは4人発見され、大腸がん発見率0.15%、陽性反応適中度1.75%であった。

職域検診は18,436人が受診し、そのうち要精検者数は961人、要精検率5.21%、精検受診者数は448人、精検受診率46.6%であった。精密検査の結果、大腸がんは13人発見され、大腸がん発見率0.07%、陽性反応適中度1.35%であった。また、ポリープ211人、ポリープ発見率1.14%であった。

また、初回受診者は、受診者数2,096人、全受診者の11.4%であった。要精検者数は123人、要精検率5.87%、精検受診者数は61人、精検受診率

49.6%であった。精密検査の結果、大腸がんは2人発見され、大腸がん発見率0.10%、陽性反応適中度1.63%であった。

職域検診は受診者の80%は30～59歳で占めている。精検受診率が依然として低率であるので、受診勧奨が重要である。

[平成26年度実績見込み(平成26年12月31日現在)]

地域検診の受診者数は20,212人、職域検診は15,366人の見込みである。

要精検率は、地域検診7.70%、職域検診5.20%である。

2. 平成25年度発見大腸がん患者確定調査結果について：田中委員

検診で発見された大腸がん及びがん疑い154例について確定調査を行った結果、確定癌142例（地域検診38例、施設検診104例）、腺腫4例、異常なし1例、本人の希望により治療せず、その後転院1例、受診歴なし1例、調査中5例であった。そのうち早期がんは80例、早期癌率は56.3%であった。現在調査中のものがあるので、最終集計は、後日取りまとめる。

調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様な傾向であった。

(1) 性及び年齢では男女とも60歳以上からがんが多く発見された。

40歳代からがんが6例発見され、内訳はポリープ癌m癌4名、48歳女性SE、45歳女性SM。

(2) 部位では「R」と「S」が59.2%、肉眼分類では「2」36.6%であった。早期癌80例の肉眼分類では「Ip」「Isp」が53.8%であった。

(3) 大きさは、10mm以下が36例（25.4%）、11～20mmが44例（31.0%）、21～50mmが53例（37.3%）、51mm以上が9例（6.3%）であった。

(4) Dukes分類は「A」が71.1%、組織型分類は「Well」が47.2%、「Mod」が46.5%であった。

(5) 治療方法は外科手術が31例（21.8%）、内視鏡下手術52例（36.6%）、内視鏡治療は58例

(40.8%)であった。腹腔鏡下手術が増えつつある。

(6) 逐年検診発見進行大腸がんは16例(東部7例、西部9例)であった。

各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

田中委員より、腺腫のケースを含め、組織診断が判明する前に、報告票を提出している症例があり、集計する際、肉眼分類等が不明扱いとなるので、精検医療機関はご留意頂きたいと話があった。

内視鏡治療の内、ESDを集計する必要があるかという質問があったが、内視鏡治療の内ESDは3%ぐらいなので、今のところ集計する必要はないとのことだった。

3. 各地区大腸がん注腸読影会及び講習会実施状況について(1月末集計)

〈東部―尾崎委員〉

読影会実績なし。大腸がん検診従事者講習会を2月19日開催予定。

〈中部―秋藤委員〉

1回の読影会を行い、1症例を読影し、懇室であった。

大腸がん検診従事者講習会を1月9日開催した。

〈西部―細田委員〉

読影会実績なし。大腸がん検診従事者講習会を3月24日開催予定。

4. 事業評価のためのがん検診チェックリスト(個別検診用)策定に向けたパイロット調査について:岡田委員

国立がん研究センターが策定を進めている医療機関検診用の大腸がん検診チェックリストについ

て、鳥取県においてはそのモデル事業に参画した。

国立がん研究センターがこの事業を委託している「キャンサースキャン」より平成26年10月31日付けで、県内の大腸がん一次検診医療機関256機関を対象に、事業評価のためのがん検診チェックリスト(個別検診用)策定に向けたパイロット調査依頼を行った。

1月現在で256機関中、130機関の回答があった。回収率50.8%。健対協の封筒で郵送したが、周知が行き届かなかったこともあり、回収率が低かったことが、残念である。

今後、「キャンサースキャン」が集計解析を行い、後日、報告を頂くこととなっている。

5. その他

(1) 鳥取県大腸がん注腸読影委員会運営要領(案)策定について

前回の会議において、読影委員会としての役割を明確に示し、更なる読影精度管理に努めるべく、「鳥取県大腸がん注腸読影委員会運営要領案」を提示した。

この度、再度、運営要領と様式1号、2号が提示され、協議の結果、原案どおり承認された。

委員より、内視鏡検査が困難な方などに、精密検査方法の一つとして、大腸3次元CTスクリーニング検査(CTC)について検討してはどうかという話があった。

この件については、前回の会議においても取り上げられ、CTC検査は検診学会で有用性がまだ認められていないので、根拠のある方法で行うことが重要である等の意見があった。

CTC検査を実施している委員からは、内視鏡検査が困難な方にとっては良い検査であるが、精度的には有用性がまだ認められていない。また、読影システムの構築の問題があるとの話があった。

(2) 平成27年度大腸がん検診従事者講習会について

平成27年8月頃に中部で行うこととなった。

大腸がん検診の対象者数について

$$\text{大腸がん検診対象数} = \text{40才以上の人口} - \text{就業者数} + \text{農林水産業従事者数}$$

※人口、就業者数、農林水産業従事者は平成22年度国勢調査を使用

八頭町

	人口	就業者	農林水産業従事者	合計
男	5,268	3,526	874	2,616
女	6,245	3,047	720	3,918
計	11,513	6,573	1,594	6,534

※全て40才以上
参考：総人口 18,427人

琴浦町

	人口	就業者	農林水産業従事者	合計
男	5,369	3,543	1,020	2,846
女	6,575	3,005	805	4,375
計	11,944	6,548	1,825	7,221

※全て40才以上
参考：総人口 18,531人

大山町

	人口	就業者	農林水産業従事者	合計
男	5,316	3,625	1,329	3,020
女	6,372	2,932	1,043	4,483
計	11,688	6,557	2,372	7,503

※全て40才以上
参考：総人口 17,491人